

Title	新人看護師の態度形成を支援する教育のあり方とは：基礎からの接続教育に焦点化して
Sub Title	
Author	伊藤, 麻美(Ito, Mami)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2019
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)
JaLC DOI	
Abstract	目的：基礎教育から現任教育への接続教育に関する課題を明らかにするため、プリセプターの新人看護師の態度形成に対する具体的な関わりを明らかにする。 方法：研究参加者6名から得られた10エピソードのうち、本研究の目的に合ったエピソード7件を研究対象とした。なお、データ分析は、小規模データに適応が可能であり、分析プロセスの明瞭さを特徴とする SCAT(4 Steps for Cording and Theorization)の手法を参考に、質的マトリックスを用いて行った。 結果：研究参加者6名のプリセプター経験年数は2年(4名)、5年(1名)、23年(1名)であり、うち3名が実地指導者研修を受講していた。(以下、テーマ『』、カテゴリー【】、サブカテゴリー〔 〕で示す。) プリセプターが新人看護師の態度が『印象に残った』場面について、『その理由』は、〔苛立ち〕〔憤り〕〔嫌悪感〕など【ネガティブな感情を抱】いたためであった。『指導において意識していること』では、【感情をコントロールする】【共感する】【相手の気づきを促す】【真剣に向き合う】など、指導に関わる姿勢を表すもの、〔指導のタイミングをはかる】【対象に合わせた指導をする】など、指導方法に関するものがあつた。それに対して、新人看護師の体験を【ともに振り返】り、【モデルを示】しながら【繰り返し意識づけ】を行うと同時に、日ごろから新人看護師との【信頼関係を築く】よう意識的に関わり、【周囲のサポートを得る】などの調整を行っていた。その『結果』、【課題を明確化し言語化できる】【気づく】【行動変容が認められる】など変化が認められたが、〔きっかけにより課題に気づく〕〔できるようになっているが完全ではない〕〔行動変容に数年単位の時間を要した〕というように、指導を繰り返し、継続的に行う必要性が示唆された。 結論：プリセプターは、ネガティブな場面ほど印象深く、それが新人看護師に対する感情につながる傾向にあるが、指導者として好ましい姿勢をもって、指導方法を工夫しながら根気よく継続的な指導を行っていた。新人看護師の行動変容には、長期的かつ継続的な指導が必要であることから、プリセプターの支えとなり、新人看護師との信頼関係を維持するための周囲のサポートが必須である。 今後は、テキストマイニングを用いた数量的分析の視点を加え、混合法による分析と考察を行う予定である。
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180209

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	看護医療学部	職名	助教(有期)	補助額	300 (A) 千円		
	氏名	伊藤 麻美	氏名 (英語)	Mami Ito				
研究課題 (日本語)								
新人看護師の態度形成を支援する教育のあり方とは～基礎からの接続教育に焦点化して～								
研究課題 (英訳)								
1. 研究成果実績の概要								
目的: 基礎教育から現任教育への接続教育に関する課題を明らかにするため、プリセプターの新人看護師の態度形成に対する具体的な関わりを明らかにする。 方法: 研究参加者 6 名から得られた 10 エピソードのうち、本研究の目的に合ったエピソード 7 件を研究対象とした。なお、データ分析は、小規模データに適応が可能であり、分析プロセスの明瞭さを特徴とする SCAT(4 Steps for Coding and Theorization)の手法を参考に、質的マトリックスを用いて行った。 結果: 研究参加者 6 名のプリセプター経験年数は 2 年(4 名)、5 年(1 名)、23 年(1 名)であり、うち 3 名が実地指導者研修を受講していた。(以下、テーマ『 』、カテゴリー【 」、サブカテゴリー〔 〕で示す。) プリセプターが新人看護師の態度が『印象に残った』場面について、『その理由』は、〔苛立ち〕〔憤り〕〔嫌悪感〕など【ネガティブな感情を抱】いたためであった。『指導において意識していること』では、【感情をコントロールする】〔共感する〕〔相手の気づきを促す〕〔真剣に向き合う〕など、指導に関わる姿勢を表すもの、〔指導のタイミングをはかる〕〔対象に合わせた指導をする〕など、指導方法に関するものがあつた。それに対して、新人看護師の体験を【ともに振り返り】、【モデルを示】しながら【繰り返し意識づけ】を行うと同時に、日ごろから新人看護師との【信頼関係を築く】よう意識的に関わり、【周囲のサポートを得る】などの調整を行っていた。その『結果』、【課題を明確化し言語化できる】〔気づく〕〔行動変容が認められる〕など変化が認められたが、〔きっかけにより課題に気づく〕〔できるようになっているが完全ではない〕〔行動変容に数年単位の時間を要した〕というように、指導を繰り返し、継続的に行う必要性が示唆された。 結論: プリセプターは、ネガティブな場面ほど印象深く、それが新人看護師に対する感情につながる傾向にあるが、指導者として好ましい姿勢をもって、指導方法を工夫しながら根気よく継続的な指導を行っていた。新人看護師の行動変容には、長期的かつ継続的な指導が必要であることから、プリセプターの支えとなり、新人看護師との信頼関係を維持するための周囲のサポートが必須である。今後は、テキストマイニングを用いた数量的分析の視点を加え、混合法による分析と考察を行う予定である。								
2. 研究成果実績の概要 (英訳)								
3. 本研究課題に関する発表								
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)					
Mami Ito	Involvement of preceptors in attitude formation in novice nurses	22nd East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS)	2019.1.18 (Singapore)					